

切手大買入は 2会派返納方針

市川市議会全協

市川市議会に議員の
政務活動費の使い方を
調べる二つの百条委員
会が設置された問題で

16日、全協協議会が開かれた。全口会派が今後の政務費の取り扱いについて、それぞれの方針を説明。問題の発端になった切手の大買入については、2会派が全額自主返納の方針を示した。

百条委の一つは一度も開催されないまま当初決めた期限が切れて消滅。残る一つも統一地方選による市議改選に伴って消滅する。

この日の全協協議会

は、大久保博市長が外部に発注した監査の結果、政務費約2100万円分が内規に沿わない支出とされたことを受け、宮田克己議長が

開催を提案した。切手については、他会派から「実際に支出した議員の判断に委ねる」などの方針が示された。

宮田議長は、これまでの経緯を改選後の議長に引き継ぐことを表明。「新しい(議会の)体制で、適切なルール改正がされることを期待する」と述べた。

【市村一夫】